

2025 JUA/AUA Resident Program 参加報告

三 枝 直 幹 (東京大)

このたび、JUA/AUA Resident Program の一員として、2025年4月26日から4月29日までネバダ州ラスベガスで開催された米国泌尿器科学会年次総会（AUA Annual Meeting 2025）に参加させていただきました。本プログラムはJUAとAUAのご支援のもと、日米の交流事業の一環として行われており、レジデント向けに国際学会を早期に経験できる貴重な機会です。参加者は学会参加費や滞在費の補助を受けることができ、レセプションパーティーなどのイベントにも参加できるため、アメリカや日本を含む多くの国の先生方と交流を深めることができました。

開催地ラスベガスはご存じの通り、カジノやショーを含めエンターテインメントの町として知られており、非日常的な1週間となりました。また、用意していただいたホテルが映画『ハングオーバー』の舞台となったシーザーズパレスホテルであり、とても刺激的でした。初めての単身での海外滞在であり、緊張や興奮が入り混じった気持ちでラスベガスに降りた気持ちを今でも鮮明に覚えております。

学会期間中は本プログラムに同じく選出された木内先生（東京慈恵会医科大学）が参加したresident bowlを含め若手向けのイベントも多く、できる限り多くのイベントに参加してきました。特に興味深かったものが、ロボット手術を始めて数年程度の若手が自分の手術動画を流し、数人のエキスパートがアドバイスをを行うRobotic Theaterのイベントでした。自分の動画を堂々と発表し、エキスパートやオーディエンスとともに議論している姿には感銘を受けました。また、ロボット手術で国際的に有名なPatel先生やTewari先生の発表を中心に足を運び、講演後にTewari先生と実際に話したことは大変貴重な経験となりました。ASCOがあるためか学会が設けているイベントの多くは手術やデバイスに関するものが多い印象でしたが、TAR-200やCREST試験などのセッションも盛り上がっておりました。

さらに、国際学会では普段なかなか接点のない日本国内の他大学の先生方とも交流できることが大きな魅力です。JUAとAUAが主催するジョイントセッションでは他大学の教授と話す機会もあり、日本の泌尿器科医として手術だけでなく化学療法にも力を入れて今後も盛り上げていくという言葉に深く共感しました。また、学会期



写真1 AUA President Receptionの様子



写真2 AUAに参加された日本の先生方との夕食

間中の夕食では他大学の先生方の集まりにも参加させていただき、自分自身の視野も広がり大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださったJUAとAUAの関係者の方々、推薦いただきました当教室の久米春喜教授、派遣を快諾いただいた自治医科大学腎泌尿器科学講座 藤村哲也教授、その他多くの先生方に深くお礼申し上げます。今後もこの経験を糧に研鑽を積み、AUA/JUA両学会の発展に少しでも寄与できるよう尽力してまいります。